あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第12号
発行
平成23年4月1日
(隔月発行)

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げ、夢があふれる空間をめざします
発行:西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町 5-6-18　イングビル1階

2011 NPO市民フェスティバル

地道な活動 発表満開

36団体 ステージで ブースで

「2011 NPO市民フェスティバル」が 2 月 20 日(日)、南町スポーツ･文化交流センターきらっとで開催されました。NPO法人や市民活動団体が相互に交流を深めるとともに、多くの市民の方に日頃の活動を知ってもらうことを目的に、同フェスティバル実行委員会と市民協働推進センターが主催しました。

まちづくり、環境保全、子どもの健全育成、社会教育、国際協力、福祉などさまざまな分野の 36 団体が参加。会場中央のステージでは19団体がパフォーマンスや熱弁で日頃の活動ぶりを発表し、周囲に設けられたブースでは各団体が工夫を凝らしたパネルを展示しました。この日は市民約350人が来場し、ステージに見入ったりブースを見て回ったりして市民活動の息吹に触れていただけたようです。

参加団体数は前年度より 7 団体増え、金融機関の社員ボランティアクラブが初参加するなど企業との連携も一歩前進したようです。また武蔵野大学の学生がボランティアで活躍。3 人が実行委員となり企画立案の段階から参画するとともに、前日は会場設営などの準備、当日は受付や音響調整、脳年齢測定、総合司会にと大勢の学生に協力してもらいました。

丁寧に、熱っぽく活動内容を説明する団体

企業の発表に着ぐるみも一役買う

母と子たちのエネルギッシュなダンス

学生ボランティアの若い力が運営を支える

展示物が整い開場を待つブース

「協働」　多くの事例から考えた

市民と行政職員、シンポで

「協働を考えるシンポジウム」は2月9日(水)、市役所保谷庁舎で開かれ、行政と市民活動団体などとの協働に関心のある市民 16 人と近隣市を含む行政職員 15 人の計 31 人が参加しました。

第1部では、ＮＰＯ法人笑顔せたがや事務局長で、松戸市の「協働のまちづくり協議会」会長も務める山崎富一さんが、「市民とともに、協働のまちづくりを」と題して基調講演＝写真。多様化する市民ニーズや複雑化する地域課題への対応などが、協働が今日求められている背景だと指摘したうえで、松戸市や世田谷区での先進的な事例を紹介しました。

第2部のパネルディスカッションでは、市民活動センターたちかわの小林郁義さん、神奈川県大和市の山本春美さん、市内のＮＰＯ法人生活企画ジェフリーの渡辺美恵さん、西東京市協働コミュニティ課長の浜名幹男さんの4人が登壇。それぞれの立場から協働の取り組みを紹介しながら、思いを熱く語りました。コーディネーターの山崎さはパネリストの方々に的確な質問を投げかけ、より深いコメントを引き出していました。

なお、基調講演やパネリストの発言内容など詳しく知りたい方は、ホームページに「協働を考えるシンポジウム報告書」が近々公開されますので、ぜひご覧ください。

「市民の提案力は行政を動かす」

アドボカシー講座

「市民のちからで地域は変わる」と題したアドボカシー講座は3月5日(土)、18 人が参加してイングビルで開かれました。

アドボカシーとは、市民活動の実践による身近な政策提言のことです。講師のＮＰＯ法人アクションポート横浜常任理事・川崎あやさんは、公園に小さな集会施設を造りたいと市民が行政に提案したところ、施設の設置はできないとする市の要項を改正したうえ、設計の専門家まで派遣してもらえたという横浜市の協働事例を紹介。

また政策提言は、市民が国や自治体などに働きかけたり、マスコミを通して社会にアピールしたりする「運動型」と、市民自らが必要な事業やサービスを開発、運営することでついには国や自治体の制度や施策に影響をもたらす「実践型」があり、その相乗効果が社会ニーズを目に見えるものにして政策実現につながると話しました。

参加者は運動を継続させる方法やリーダー・人材の育て方などについて熱心に質問していました。

家族からダメ出し/厳しい合評会/望外の全編掲載

ＮＰＯ代表が明かす
「女性の聞き書き集」ウラ話

本年度最後のトークサロンは 3 月 10 日（木）、6 人が参加し、『西東京市の女性の聞き書き集』を発行したＮＰＯ法人生活企画ジェフリー理事長、渡辺美恵さんから編さんにまつわるこぼれ話を聞きました。

聞き書き集は昭和を生きた 22 人を取り上げていますが、本人は了承したのに家族が難色を示したため取材を断念しなければならない人が何人もいたそうです。インタビューは1回2時間ですが、補足取材で何回も足を運んだり、原稿も本人が読んで「よい」と言うまで書き直したり。フリー編集者でもある渡辺さんは「必殺原稿仕分け人」と呼ばれ、仲間同士の合評会ではみんな目の色が変わり「険悪の一歩手前」の空気だったそう。

東伏見に 30 年余り住んでいた詩人の故茨木のり子さんの作品「自分の感受性くらい」は、遺族が無償で全編掲載を申し出てくれ、編集スタッフを感激させました。

渡辺さんたちは4月に西東京市女性史研究会を立ち上げ、今回の本とは一味違う、読み物としての記録を残していきたいと張り切っています。

会計講座 中級編に 14 人

ＮＰＯ法人のための会計講座・中級編は、2 月 2 日（水）、ＮＰＯ会計の専門家である馬場利明さん（税理士・ＮＰＯ支援会議）を講師に招き、14 人が参加してイングビルで開催されました。

ＮＰＯ会計と企業会計の違い、決算処理、区分経理と法人税などについて、詳細な資料を添えて丁寧な説明があり、昨夏まとめられた「ＮＰＯ法人会計基準」の概要も分かりやすく解説されました。参加者からは、「次年度もこのような会計講座に参加したい」「ＮＰＯ法人会計基準についてもっと知りたい」などの声が寄せられました。

おことわり 3 月 12 日（土）に予定していた名刺交換会（第 4 回ＮＰＯ・市民活動ネットワーク）は、前日の東北地方太平洋沖地震の発生により、中止となりました。

☆ 助成金情報 ☆

（詳しくは各助成団体のホームページをご覧ください）

◆西東京市社会福祉協議会助成事業【対象】西東京市内で地域福祉活動を行っている、または始めようとしているグループ・施設・民間団体などで、講座、講演会、住民同士のつながりをつくる事業など【助成金額】1団体上限 15 万円、助成総額 60 万円【応募期限】4月 28 日【問い合わせ先】同協議会地域福祉推進係（☎042・438・3771、http://www. furemachi.jp/）

◆独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業【対象】社会福祉法人、医療法人、財団法人、社団法人、NPO 法人、その他社会福祉の振興に寄与する事業を行う法人もしくは団体で、①社会福祉の振興に資する創意工夫ある事業②高齢者・障害者などの日常生活の便宜もしくは社会参加を促進する事業③地域の多様な社会資源を活用し、複数の団体が連携やﾈｯﾄﾜｰｸ化を図り、社会福祉諸制度の対象外のニーズその他地域の様々な福祉のニーズに対応した地域に密着した事業④全国または広域的な普及・充実を図るため、複数の団体が連携やﾈｯﾄﾜｰｸ化を図り、相互にノウハウを共有し、社会福祉の振興に資する創意工夫ある事業または社会福祉施策などを補完もしくは充実させる事業【助成金額】事業ごとの限度額は①50 万～300 万円②50 万円以上③50 万～700 万円④50 万円以上【応募期限】4 月 15 日【問い合わせ先】独立行政法人福祉医療機構助成事業部助成振興課（☎03・3438・9945、9946、ファクス 03・3438・0218、http://hp.wam.go.jp/）

◆子育て家庭支援団体に対する助成活動【対象】就学前の子どもの保護者など（妊婦などを含む）への支援活動を行っている民間非営利の団体・グループ、NPO 法人など【助成金額】1 団体あたり上限 25 万円（総額最大 1400 万円）【応募期限】4 月 28 日【問い合わせ先】生命保険協会「子育て家庭支援団体に対する助成活動」事務局（☎03・3286・2643、ファクス 03・3286・2730）

◆キリン・シルバー「力（ちから）」応援事業公募助成【対象】65 歳以上のメンバーが中心となって活動する 4 人以上のグループ（メンバーの半数以上が 65 歳以上であり、なおかつ活動の中心となっている 4 人以上のメンバーが 65 歳以上であること）で、地域のために、その知識・技術・経験を活用するボランティア活動【助成金額】1 件（1 団体）あたりの上限 30 万円（総額 500 万円）【応募期限】4月 30 日【問い合わせ先】公益財団法人キリン福祉財団千葉さんまたは栃内さん（☎03・5540・3522、ファクス 03・5540・3525、http://www.kirin. co.jp/foundation）

◆みずほ教育福祉財団「老後を豊かにするボランティア活動資金」【対象】地域社会で高齢者のための活動をすすめている幅広いボランティアグループ（住民参加型在宅福祉サービス団体などを含むが、老人クラブやＮＰＯなどの法人格を有する団体は対象外）であり、ボランティア数 10～50 人程度、結成以来の活動実績 2 年以上。高齢者の日常活動の援助、生活環境の改善、レクリエーション、世代間交流を進めるボランティア活動に直接使用する用具・器具類【助成金額】1 グループにつき 10 万円まで。全体で 180 グループ程度【応募期限】5 月 31 日【問い合わせ先】みずほ教育福祉財団福祉事業部藤井さん（☎03・3596・4532、ファクス 03・3596・4531）

◆社会福祉法人木下財団障害者福祉関係助成【対象】社会福祉を目的とする民間団体（原則として非法人、ＮＰＯ法人は対象）で、障害児・者（身体・知的・精神障害）の小規模作業所、グループホームおよび自立生活支援団体などの施設の増改築、補修、または備品などの購入に必要な資金の一部【助成金額】1 件あたり上限 30 万円、総額 1100 万円【応募期限】5 月 31 日【問い合わせ先】社会福祉法人木下財団（☎03・3375・1511、ファクス 03・3375・1512、http://www.kinoshita-zaidan.or.jp）

◆ニッセイ財団高齢社会助成▽実践的研究助成【対象】高齢社会における地域福祉・まちづくりを探求、高齢者の自立・自己実現・社会参加などを探求、認知症高齢者に関する予防からケアまでを探求【助成金額】2 年、1 件あたり 200 万～250 万円程度、5～8 件程度【応募期限】6 月 15 日【問い合わせ先】日本生命財団高齢社会助成事務局（☎06・6204・4013、ファクス 06・6204・0120）

ホームページをご利用ください！

http://www.yumecollabo.jp/

ゆめこらぼのホームページが4月15日から公開の予定です。3月26日（土）に、利用を希望される登録団体の方々に説明会を行いましたが、ゆめこらぼに登録された団体は、主催イベントのお知らせや事後の報告を掲載できるようになります。パソコンだけでなく携帯画面でも見られます。

ホームページは、ゆめこらぼ主催の各種講座などイベントのお知らせや報告をトップページで、施設・設備の利用案内、助成金情報、ゆめこらぼ通信のバックナンバーなどはメニューからご覧になれます。「登録団体紹介」のメニューからは活動分野やキーワードから知りたい団体を検索できます。

イベント案内・報告については登録団体からも発信でき、日時、行事名、団体名がトップページに収められます。

また、市民が困った時に頼れる特技や能力を持つ人や団体を登録して概要を一覧できる「お助け情報」についても準備を進めています。

登録の手続きは簡単です。登録すると、ゆめこらぼ内のメールボックスを無料で使え郵便物の受取先にできたり、サロンコーナーと印刷機の利用予約ができたりするメリットもあります。早速、アクセスしてみてください。

新たな登録団体（2月～3月）

▼学び塾「猫の足あと」（子どもを貧困と格差から守るために教科書の無償化をめざす。子どもたちとともに自主的な学習をすすめ、人間としての権利を尊び科学的真実を愛し民主的社会の成員として成長できるよう支援する）

＜登録団体は計51になりました＞

みんなの本棚

葬式をしない寺

-大阪･應典院の挑戦-

秋田光彦<著>

新潮新書／735円

大阪の浄土宗のお寺應典院は「檀家ゼロ、葬式・法事は一切しない」ことで有名。これまでの常識をひっくり返す「開かれたお寺」では、トークサロンを定期的に開催し、演劇の小劇場としても大いに利用されている。日本一若者が集まるお寺で、年間3万人という。

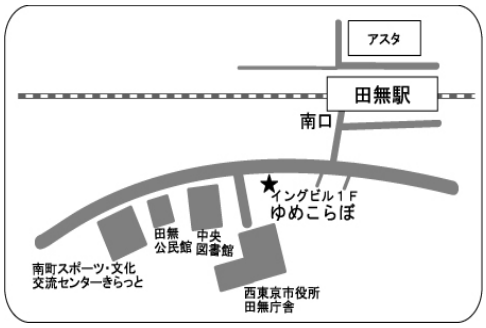
宗派にこだわらない、市民に開かれたお寺は、「應典院寺町倶楽部」というＮＰＯが運営している。そういえば、『非営利組織の経営』の序文で、ドラッガーは「今も機能している最古の非営利機関は日本にある。奈良の古寺がそれである。創立の当初から、それらの寺は、非政府の存在であり、自治の存在だった」と述べている。

應典院代表である著者秋田さんは、現代が抱える「苦」と向き合う、たくましい個人の主体性を育て、それを「縁」のネットワークに編み上げることが、お寺の最大の使命だと指摘して、「対話と協働の仏教へ。そこに未来への航海図がある」という。　（西口　徹）

《スタッフから》

○…今回ここに寄せる言葉が見つからない。震災に負けずに頑張って―なんて、何の力になるだろう。ただ被災地の人々の過酷な状況に立ち向かう強い意志力に心を打たれるのみだ。特に若い人の、自身の悲しみを超えた力強い行動力に、逆にこちらが勇気をもらっている。「おい、おまえ、そんなんでいいのか」という声が聞こえる。（片山）

○…この1カ月は大変忙しく過ごしました。娘が出産後に我が家に来ました。日中は掃除、洗濯、買い物、料理に赤ちゃんのもく浴も加わります。3月11日の震災後は紙おむつやミルクを求める行列に並びました。夕方になり、勤めから帰った妻にバトンタッチ。乳児1カ月健診を何事もなく終えたときにはホッとしました。（佐藤）



開館日：水～月（10時～21時）土･日･祝日オープン
休館日：火曜日（祝日の場合は開館し次の平日に休館）･年末年始
〒188-0012　西東京市南町5-6-18　イングビル1階
西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ
Tel: 042-497-6950　　FAX: 042-497-6951
E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
URL: http://www.yumecollabo.jp/